

奈良県立医科大学

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **63** 2018
February

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.6

研究紹介



今井町ゲストハウス P12



奈良県立医科大学
Nara Medical University

Contents

特集

理事長・学長からのメッセージvol.6	3
研究紹介	5
MBT 研究所だより	7
図書館だより	8
E 棟部門紹介	9
ラジオ体操を毎朝行っています	9
生体分子不均衡制御学共同研究講座を開設いたしました	10
附属病院南側で新たな「まちづくり」が進んでいます	10

Campus News

IT pro EXPO2017・デジタルヘルス DAYS に出展しました	11
BioJapan2017に出展しました	11
第12回けいはんなビジネスメッセに出展しました	11
高大連携教育を推進しています	11
[MBT 健康長寿フェア in 今井町 2017]を開催しました	11
チェンマイ大学附属病院で研修を受けました	12
今井町ゲストハウスが完成しました	12
平成29年度白種生祭のご報告	13
組換えDNA実験安全委員会講演会を開催しました	13
訪問看護の同行実習を行いました	13
特別共同研究助成事業実績報告会を開催しました	13
医学部医学科「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました	14
[FUN + WALK PROJECT] トライアルデーに参加しました	14
奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました	14
第7回西日本医学生学術フォーラム2017を開催しました	15
柔道家の篠原信一さんと消化器・内分泌代謝内科の吉治教授がトークショーを行いました	15
ライフサイエンス新技術説明会～医療系大学～で研究シーズを発表しました	15
健康長寿大規模コホート研究助成事業進捗状況報告会を開催しました	15

Winner Report

第73回日本放射線技術学会総会学術大会でCyPos賞 (Bronze Award) を受賞しました	16
第73回日本放射線技術学会総会学術大会で梅谷賞を受賞しました	16
日本放射線技術学会第60回近畿支部学術大会にて新人奨励賞を受賞しました	16
第98回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会でYoung Endoscopist 賞を受賞しました	16
第16回日本肝がん分子標的治療研究会で優秀ポスター賞を受賞しました	17
第23回癌治療増感研究会で第18回菅原賞を受賞しました	17
平成29年度第2回若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定	17
第217回内科学会近畿地方会で若手奨励賞最優秀賞を受賞しました	17
第58回日本組織細胞化学会学術総会で学会賞 (高松賞) を受賞しました	17
World Academic Championship-2017 in Nursing for outstanding scientific contributionsを受賞しました	18
第25回日本消化器関連学会週間 (JDDW2017) でポスター優秀演題賞を受賞しました	18
第19回臓器移植推進国民大会で臓器移植推進功労者厚生労働大臣感謝状を贈呈されました	18
第45回日本放射線技術学会秋季学術大会で優秀演題賞を受賞しました	18
アメリカ肝臓学会 (AASLD) The Liver Meeting 2017で優秀ポスター賞を受賞しました	19
2017年度 武田科学振興財団の医学系研究奨励を受賞しました	19
2017年度 武田科学振興財団の特定研究助成を受賞しました	19
奈良県放射線技師会65周年記念式典で奈良県知事表彰を受賞しました	19
第24回肺塞栓症研究会学術集会で優秀演題賞を受賞しました	20
第103回北米放射線学会のEducation ExhibitでCertificate of Merit を受賞しました	20
公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団より第37回助成金が交付されました	20
平成29年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました	20
Nara Medical University's own Yuki Uegaki takes first prize!	21
神澤医学研究振興財団・平成29年度 (第21回) 研究助成金を受賞しました	21
平成29年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました	21
平成29年度 外部資金獲得状況	22

Information

公開講座情報	26
--------	----

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	27
「未来への飛躍基金」寄附金控除等の仕組みについて	27
メディア掲載情報／編集後記	28

理事長・学長からのメッセージ vol.6

新年明けましておめでとうございます。

就任以来4年弱、皆様のお力添えのおかげでここまで来ることができました。

この場をお借りして、深く感謝を申し上げます。

今後もさらに、情報の収集に努力し、学内外の意見も積極的に取り入れて、皆さんと一緒に、奈良医大の明るい未来を築いていきたいと思っております。

本年も、より一層の御協力の程、よろしくお願い申し上げます。

1. トップブランドを目指す—その理由—

昨年12月2日の日経新聞の朝刊に、ポスト平成・新しい日本へという記事が掲載され、見出しには「先送りから先取りへ」と、ありました。解決すべき問題を「先送り」する事は許されなくなり、先取りをしていく行動力が求められる時代になった事を表しています。日本には82の医学科があり、280（今年4月開講の11学科を含む。）の看護学科があります。日本でも、世界でも、大学間の競争が激化し、存在価値の低い大学は淘汰される時代がやってきています。

昨年5月5日の日刊工業新聞には、「旧7帝大という言葉は使われなくなる。指定国立大学が、確固たるブランドに、世界と戦う先例作り」という記事が掲載されており、指定に重要なポイントとして、産学連携が挙げられていました。

大学発ベンチャーへの出資は、ベンチャーキャピタルを通じた形により、現在でも全国立大で認められていますが、指定国立大学においては金融面や運営面においてより自由度が大きくなるようです。

皆さんもお気づきになっておられるかとは思いますが、近年、国立大学が全国紙に全面広告を出すことが珍しい事ではなくなってきました。大阪大、広島大、横浜国立大など、多くの例がありますが、5年前には見られなかったことです。国立大学といえども、その存在を世間に強くアピールする重要性を認識していることによるものと思われる。

このような大学を取り巻く情勢の中で、医学系においても教育・研究・診療への注力だけでなく、各大学独自の取り組みが行われてきています。例えば、医学領域発ベンチャーとしては、東京大、京都大、大阪大、慶応大などが有名です。

本学は、橿原市にある規模の小さな単科大学ですが、ポテンシャルは高く、日本・世界でその存在感を発揮して、指定国立大学並みと社会が認める医科大学を目指せるものと思っています。大学にとって、突如起こる災いは、地震などの天災だけではありません。

現在は、少し下火になっていますが、道州制の導入といった様な行政システムの大改革なども、突然、いつ動き出すともわかりません。本学も、どのような変革が起こっても、それに対応できる準備を日頃からしっかりとしておく必要があると思っています。

2. トップブランドを目指す—その戦略—

事業を行うとき、一般的には、まず目的を掲げ、(数値) 目標、方法(戦略)を示し、達成度を評価することが行われます。このうち最も重要で難しい事は、目的を達成するための戦略を示すことだと思います。以下に私が考える戦略の一つを示します。ここでは「MBT共同研究プロジェクト(略称:MBT共同研究)」と呼ぶことに致します。

MBT共同研究において達成しようとする目標は、「個々の研究者や教室の研究力、業績を何倍にも高めることができ、これによって、社会への貢献度が何倍にもなり、結果として本学の存在感を高めることができる。」というものです。図1は、大学の8人の研究者がそれぞれ単独で研究を行った場合を示します。一つの研究に従事する研究者は1人です。実験からデータ整理、論文作成まで1人で行います。図2は、大学の8人の研究者がそれぞれ企業と共同研究を行った場合です。企業から5人の研究者を出してもらえらば、6人の研究グループが8グループできます。グループのリーダーを奈良医大の研究者が務め、人材と研究費は企業が持ち込みます。図3は、共同研究の成果の分配を示します。論文は本学の研究者が筆頭著者として執筆し、企業はこの成果を用いて新製品など新ビジネスを行います。生まれた特許は、大学と企業の両方の権利となります。

MBT共同研究では、単に大学の研究者が効率よく研究でき



図1

理事長・学長からのメッセージ vol.6

るだけが利点ではありません。共同研究の成果は論文にとどまらず、製品として世界に発出されることによって、世界への貢献度は極めて大きくなります。近年のノーベル賞の選考基準においても、世界への貢献度が大きなファクターを占めているように思います。

図4に2017年12月26日の日経新聞の記事を示します。すでに奈良医大MBTには90社を超える企業が集まっています。MBT 研究所は、本学の研究力強化のためこの企業群と各

教室とのマッチングを行っており、その成果がマスコミに取り上げられるようになって参りました。

本学の多くの先生方が、MBT 共同研究プロジェクトに参加いただき、研究グループのリーダーとして活躍していただきたいと切に願っております。MBT 研究所は、そのためのお手伝いをする組織として、しっかりとサポートして参りますので、お気軽にご相談頂けましたら幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。

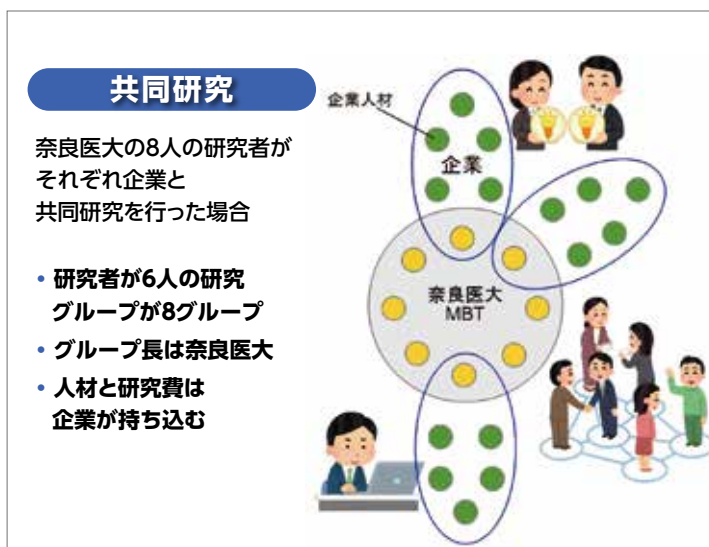


図2



図3

90社連合、予防医療探る

奈良・橿原で実験始動

奈良医大はPM2.5と体調についてビッグデータ解析する

住民のデータ収集・分析

2017年12月26日 日本経済新聞

マッチング成立・進行中：12教室
(2017年11月現在)

図4

救急医学領域の研究



救急医学 教授 奥地 一夫

救急医学教室ではこれまで特定の臓器または疾患や外傷に固執せず、急性発症した重症患者の救命率、機能予後の向上を目指して研究に取り組んできました。そのため研究領域は心肺蘇生、多発外傷、中枢神経系、感染症、凝固異常など幅広いのですが、診断や治療を進める上で臨床応用につながるテーマを選んで行なっています。

1. 院外心肺停止に対する病院前救護体制の確立を目指した研究 (福島英賢准教授)

福島准教授はアリゾナ大学に留学し、北米における進んだ院外心肺停止に対する病院前救護体制を学ぶことができました。その中で本邦の心肺停止患者の社会復帰率が低いことに注目して、速やかな心肺蘇生法と自動体外除細動器を用いた早期の電気ショックの実施率を向上させるために、どのような仕組みを構築する必要があるかを医師のみならず消防通信指令員、救急隊員、一般市民と一緒に研究を進めています。119番通報を受けた通信指令員が心肺蘇生の指導を行なう口頭指導が院外心肺停止患者の予後改善に大きく貢献しうることから、心停止を目標とした一般市民がいかに心停止を表現しうるかについて後方視的観察研究を行い、続いて心停止判断のためのプロトコールを作成し、その効果を実証するために前向きな検証を行いました。また口頭指導記録の検証プロセスを構築し、一般市民を対象とした通信指令員による口頭指導下での心肺蘇生法講習会の効果も検証し、これらの取り組みの集大成として救命率を大きく改善する病院前救護体制の確立を目指しています。

2. 重症運動器外傷の治療法の研究 (前川尚宜講師)

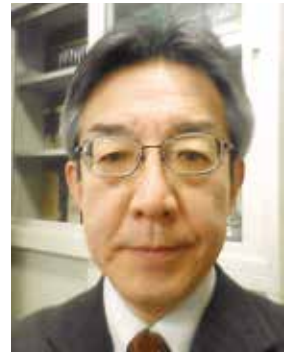
救急医学領域で治療対象となる運動器外傷は重症開放骨折、四肢切断、骨盤脊椎外傷、多発外傷があります。われわれは重症開放骨折に関してDOTJ(日本骨折治療学会主導の登録事業)に参加し、全国的な解析に協力することにより現在の治療水準や当科の現状を明らかにするとともに、更により良い治療を目指すための研究を行っています。また、重症の開放骨折治療においては戦略的に治療を行う必要があります。AO Trauma Japanや重度四肢外傷シンポジウムなどを通じて教育活動を行っています。骨盤寛骨臼骨折は骨折治療の中でも難易度が極めて高く特殊性が高く、救命センターで急性期に内固定まで行い早期の社会復帰が可能となっております。当科で開発した治療方法について、今後検証してさらなる安全な治療法の開発、先進医療機器(ナビゲーションシステムなど)を用いた治

療法の研究を模索しています。今後骨盤寛骨臼骨折に関しても開放骨折と同様の日本骨折治療学会主導の登録事業も予定されており当施設でもそれに参加していく予定です。重症運動器外傷治療を中心に、より安全な方法で早期の社会復帰や良好な機能を獲得すべく高度な治療を行いながら、自施設の治療成績や経験をもとに研究活動を行いたいと考えています。

3. 敗血症原因菌の早期同定技術の開発 (川井藤之助教)

敗血症の診療において、適切な抗菌薬を選択するために原因菌の同定は極めて重要であります。しかしながら、各種検体から原因菌を検出するための方法として、現在の主流である細菌培養検査では菌を同定するまでに数日を要します。このため、敗血症の治療に関するガイドラインにおいて、原因菌が同定されるまでは広域抗菌薬による治療を開始し、同定後、より狭域の抗菌薬に修正投与することが推奨されています。当教室ではこの問題を解決するために、血液中の細菌を遺伝子学的に検索することによって、従来の検査法よりも迅速かつ正確に検出する技術を研究しています。迅速な原因菌の技術開発によって早期に適切な抗菌薬の選択が可能で、かつ不要な広域抗菌薬の使用量を減らすために極めて重要な研究課題と考えています。

第一原理計算による機能性物質の設計



物理学 教授 平井 國友

物理学教室は物性理論を専門とし、生体を含めて、様々な物質の性質、すなわち、物性を理論的に研究している。物性理論では量子力学および統計力学に基づいて研究を進めるが、物性は幅広く、研究手法も幅広くなる。現在の研究手法と内容を挙げると、

- (1) 電子状態の第一原理計算（量子力学に基づくシミュレーション）を研究手法としたナノ物質の理論的研究（平井）。
- (2) 臨界現象、繰込み群における普遍的代数曲線、代数幾何を用いた厳密計算、シミュレーション解析といった統計力学的な研究（藤本准教授）。
- (3) 統計力学、非線形動力学を基盤に、分子や細胞の「ゆらぎ」の動態とその機能的意義を探る生物物理学の理論研究（高木講師）。

である。ここでは、(1)の研究手法と内容を詳しく説明しよう。

物性は物質を構成する原子によって決まると考えがちであるが、炭素だけの純物質であるダイヤモンドとグラファイトでは、その物性はかなり異なる。また、フラーレン（1996年ノーベル化学賞）、カーボンナノチューブ、グラフェン（2010年ノーベル物理学賞）も炭素だけの純物質であり、その物性は多様である。これらの物質は炭素原子の原子核の並び方が異なるために、電子の状態が異なり、多様な物性が引き起こされる。すなわち、電子状態が物性を決めており、電子状態を理論的に求めることが物性理論の重要な研究手法となっている。

現在、電子状態は密度汎関数法（1998年ノーベル化学賞）に基づいた計算で求めるのが主流であり、第一原理計算と呼ばれる。第一原理とは経験的なパラメータ等を含まないという意味であり、原子核の電荷かつ原子核のまわりの電子数である原子番号だけを入力して、その電子状態を求めるのが第一原理計算である。ただし、例に挙げたダイヤモンドやグラファイトの電子状態が直ちに求められるわけではなく、実際には、原子核が並んでいる格子の構造を前提とすることが多い。

この電子状態の第一原理計算を研究手法として、ナノ物質、すなわち、大きさが100nm（nmは 1×10^{-9} m）以下の物質の物性を研究している。特に、様々な物質間の多様な超構造を有する人工格子に注目している。人工格子では、自然に存在する格子では予想されなかった現象が数多く見出されているからである。例えば、層状の人工格子である多層膜では、巨大磁気抵

抗（2007年ノーベル物理学賞）、層間磁気結合、トンネル磁気抵抗などがある。これらは強磁性の層と強磁性ではない層を交互に積み重ねることによって生じる現象であり、隣り合う強磁性層の磁化が平行か反平行であるか、また、各層の厚さによって、電子状態が異なることに起因している。

研究の発端は鉄とクロムの多層膜の層間磁気結合であり、クロムの磁気状態の役割や鉄の及ぼす近接効果等の議論を展開してきた。この多層膜は1988年に巨大磁気抵抗が最初に観測された多層膜であり、その層間磁気結合にも関心が集まっていたことが研究の背景にある。余談になるが、私は1999年にドイツのユーリヒ固体物理研究所に1か月程滞在した。後にノーベル物理学賞を授与されたグリーンベルク氏の研究グループがある研究所であり、当時すでに賞の有力候補者と目されていた氏の前で1時間程の講演をしたことは良い思い出である。

近年は、多層膜を想定した機能性材料の設計に取り組んでいる。具体的には、高性能の磁石になる物質を探索している。電気自動車の発展もあり、磁石の高性能化への要請はより強くなっている。一方、現在の高性能の磁石の多くは希土類金属を含んでおり、元素戦略の観点から、希土類金属を含まない磁石の開発が求められている。理論的には、鉄とクロムの多層膜にもその可能性があり、研究を続けている。

MBT研究所だより

本年は、平成16年にMBTの前身となる住居医学講座が構想されてから15年目に当たります。そこで、MBT（医学を基礎とするまちづくり）の歩みを振り返りたいと思います。

1. 住居医学講座

住居医学は住環境を改善することにより、病気を予防し、健康を維持することを目的とした学問分野で平成16年に細井学長によって発案されたものです。平成18年には大和ハウス工業（株）の寄附により、本学初の寄附講座「住居医学講座」が開設されました。大和ハウスからの寄附は平成18年度～25年度にかけて総額6億円にものぼり、住居医学講座における研究のみならず、他の33講座にも研究奨励金として3億円の配分が行われ、本学全体の研究活動の活性化に資するものとなりました。

2. 住居医学からMBE（医工連携）、MBTへ

平成24年、住居医学講座教授となった細井先生は、早稲田大学の後藤春彦先生に協力を依頼し、MBTに関する共同研究が奈良県立医科大学と早稲田大学との間で開始されました。この共同研究の成果の一つとして、『医学を基礎とするまちづくり—Medicine-Based Town—』が平成26年1月に刊行されると一気にMBTの動きが加速しました。同年5月にはMBT構想が内閣府地域活性化モデルケースに指定されると、県・市・大学間でも包括協定が結ばれるなど、行政的枠組みが構築されました。

民間企業についても、平成28年4月に一般社団法人MBTコンソーシアムが設立され、産学官連携の体制が整備されました。（図1）

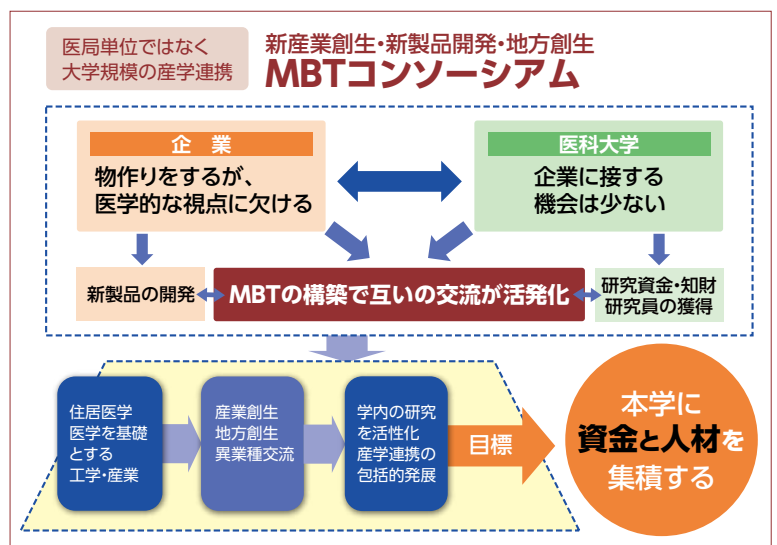


図1：MBT（医学を基礎とするまちづくり）15年の歩み

3. MBTから地方創生、産業振興、まちづくりへ

MBTは医局単位ではなく大学規模の産学連携です。物作りはするが医学的視点に欠ける企業と、企業に接する機会が少ない医科系大学がMBTのもとに交流することにより、企業は新製品の開発、大学は研究資金・研究員の獲得をすることができ、産業創生・地方創生を図ります。MBTコンソーシアムには既に90社以上の企業が参加しており、5つの部会が活動を開始するとともに、12の講座との間で連携が行われています。（図2）



図2：MBT（医学を基礎とするまちづくり）構想

知っておくと便利！ ～特定電子ジャーナル全文無償提供サービス～

PubMedの検索結果から電子ジャーナルを見ようとクリックしたら有料のメッセージが出てきて見られなかったということはありませんか？そんな方に朗報です！以下の電子ジャーナルなら図書館へ申し込んでいただくと無料で文献のPDFファイルを手いいただけます。

【購読中止による無償提供対象誌】

- ・ DNA Repair (Elsevier)
- ・ European Journal of Pharmacology (Elsevier)
- ・ Experimental Cell Research (Elsevier)
- ・ Journal of Virology (American Society for Microbiology)
- ・ Nature Immunology (Springer Nature)
- ・ Oncogene (Springer Nature)
- ・ Seminars in Hematology (Elsevier)

【特定出版社】

- ・ Bentham Science 社発行全誌
- ・ S.Karger 社発行全誌（※ 1998 年以降）

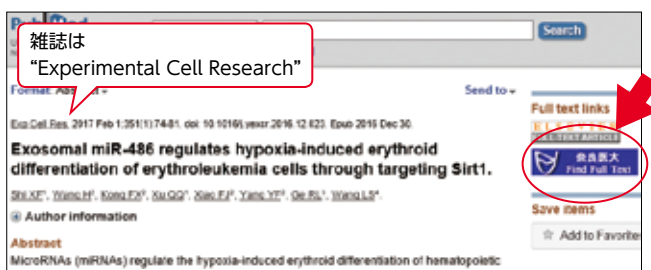
PDF 入手への 5 つの Step

① 「My ないと」へ登録

図書館への文献申込を図書館ホームページからしていただけます。学外から文献を取り寄せるときに利用するサービス「My ないと」をご利用ください。「My ないと」利用には登録が必要です。図書館 2 階メインデスクまたは図書館ホームページ（ホーム＞利用案内＞学内向け利用案内＞文献複写申込方法）から利用申請を受け付けています。「My ないと」での文献取り寄せは通常は有料ですが、上記の電子ジャーナルのみ無料で PDF ファイルをご提供いたします（「My ないと」については学報 vol.48 2014/04 参照。）。

② PubMed で目的の文献を検索

PubMed で文献を検索し、上記の電子ジャーナルだと確認したら、右上の青いアイコン「奈良医大 Find Full Text」をクリックします。



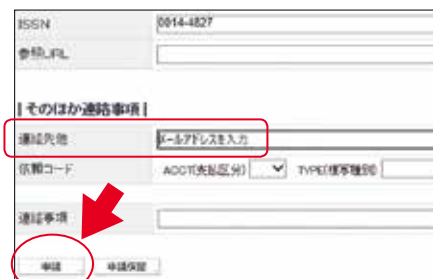
③ 一番下の項目「文献複写を依頼する」より、GO ボタンをクリック



④ 「My ないと」へログインし、論文情報を確認して間違いがなければ「複写依頼」をクリック



⑤ 「そのほか連絡事項」の「連絡先他」欄に自身のメールアドレスを入力し、申請ボタンをクリック



あとは指定のメールアドレスに PDF ファイルが届くのを待つだけです。担当者が確認し、土日祝を除き即日～翌日にはお送りします。

電子ジャーナルの価格は毎年数%ずつ値上がりしています。さらに、円安が続いていること、海外電子コンテンツへも消費税が課税されるようになったことなどから、電子ジャーナル購読の維持が極めて困難となっています。そこで、高額かつアクセス数の少ない電子ジャーナルの購読を中止するなどの見直しを重ね、予算の確保を図っているところです。今回取り上げた電子ジャーナルは、このような事情によりやむを得ず購読を中止したタイトルですが、その代わりに PDF を無償提供しています。上記のようなステップが必要となりますが、無料で PDF を入手できますのでぜひご利用ください。ただし、原則としてプリント版を所蔵しているもの、および ProQuest（プロクエスト）などの他のサイトから入手できるものは除きます。ご不明な点は図書館までお問い合わせください。よろしく願いいたします。

中央手術部

中央手術部では「全ての職種がチームを組み、安全・安心の手術を提供します」という中央手術部方針のもと、看護師、麻酔科医師、診療科の医師、臨床工学技士、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、助手等多職種と協働し、手術看護を行っています。周術期管理センターでも手術を受ける患者さんと面談し、術前から術後を通し、安全に安心して手術が受けられるよう関わっています。

手術室はハイブリッド室1室を含む15室で、手術件数は2016年度8160件でした。2017年7月からは予定手術を13室で受け、緊急手術を残りの2室で受け入れています。産科や脳外科、心臓血管外科、救急科等の患者さんの状態により待つことのできない超緊急手術を安全に受け入れ、かつ効果的に手術室を使用するための方策に日々格闘しています。

近年は、より安全で高度な医療が求められており、モニタリングシステム、鏡視下手術やロボット支援ダ・ヴィンチ手術、ハイブリッド手術、また他の手術・機器に関しても、今後も進歩していくと思われます。私達手術部看護師も質の高い看護を提供できるよう日々研鑽していきたいと思います。看護師は固定チームナーシング制をとっており、診療科ごとに4つのチームに分かれ、手術手順の更新や振り返りカンファレンス等チーム活動を行っています。手術看護



認定看護師1名が在籍し、手術体位やME機器、看護倫理について学習会や日々の指導を行い、人材育成に関わっています。

手術介助には器械だし看護と外回り看護があり、手術部に配属されてからは全ての科の介助を担当できるように先輩に教えてもらいながら手術介助を行います。麻酔介助や様々な科の手術手順・器械の使用方法を覚えることは緊張が続き大変なこともありますが、根拠が分かる様になり、術前や局所麻酔での患者さんへのケアに活かされた時、手術を円滑に終えることができた時等にやりがいを感じています。

ラジオ体操を毎朝行っています

中央内視鏡部の朝はラジオ体操から始まります。看護師、臨床工学技士、日経サービススタッフ全員で行っています。「ちょっと身体を動かすとすっきりするで。」とスタッフの一言から始まり、みんなが知っていて、短時間で終了することで

ずっと続いています。医師が参加出来なくて残念ですが、この3分間で頭も身体も心もリフレッシュできます。締めくくりは笑顔でハイタッチの後、業務開始です。皆さんもやってみませんか？



生体分子不均衡制御学共同研究講座を開設いたしました

教授（共同研究講座） 永森 収志

平成 29 年 10 月 1 日に生体分子不均衡制御共同研究講座が開設されました。本共同研究講座では、大学と企業等が共同して研究を行うことにより、優れた研究成果を創出し、社会に貢献することを目指しています。

様々な物質の不均衡分布によって生命は成り立っています。この不均衡は生体膜に存在する物質輸送を司る膜タンパク質である膜輸送体により制御されています。現在 70%ほどの薬物の標的が膜タンパク質であると言われており、特に近年はトランスポーターが新しい創薬標的として注目を集めています。私たちは膜輸送体、なかでもトランスポーターを対象として研究を行っています。主任教授である永森は、東京大学大学院農学生命科学研究科で膜タンパク質の生化学を学んだ後、Howard Hughes 医学研究所及び UCLA 医学部において Ron Kaback 教授の下で長年トランスポーター研究を行い、その後、大阪大学大学院医学系研究科生体システム薬理学教室（金井好克教授）で、トランスポーターを対象とした基礎及び創薬研究を進めてまいりました。二名の助教 Wiriyasermkul, Pattama（コロンビア大から 2 月より参加予定）、Kongpracha, Pornparn と森山理美特別研究員、田中容子博士研究員らとともに、膜タンパク質生化学に加えて質量分析計によるプロテオミクス、薬理学的手法を用い

て、新しいトランスポーター研究を展開いたします。

これまで進めてきたがん特異的なアミノ酸トランスポーターを標的とした創薬研究は、本年中に臨床研究及び治験開始の予定です。この経験を生かしてトランスポーターが関わる様々な生命現象を分子レベルで解明し、それを臨床へとつなげて参ります。また、最適化を進めてきた網羅的定量プロテオミクス、リン酸化プロテオミクスを用いて、トランスポーターが輸送する生体分子に対する生体応答システムを明らかにしたいと思えます。それと同時に、生命科学に極めて有用性、応用性の高い「プロテオミクス技術」を学内外の共同研究に使用できるプラットフォームを、本学において構築したいと考えています。是非、よろしくお願いたします。



クリーンルーム内で定量型質量分析計を操作する Kongpracha 助教と森山研究員

附属病院南側で新たな「まちづくり」が進んでいます

本学の第 2 期中期計画では、教育・研究部門の新キャンパスへの移転後、跡地を活用して行われるまちづくりに、本学も参画することとしています。

第 2 期中期計画（抜粋）

現キャンパス跡地においては、憩いの広場、診療関連施設、新外来棟等の整備計画を推進するとともに、医大が進める MBT 構想を踏まえ、県と市のまちづくりのグランドデザインに沿った「医療、介護、福祉が連携した健康まちづくり」の整備計画に参画する。

まちづくりを主導する県は、現キャンパスのうち大和高田バイパス南側を「まちづくりエリア」と位置付け、まちづくりとその核になる新駅の実現に向け、

- ① 駅と医大に隣接するメリットを活かした民間活力を呼べるまちづくり構想の策定
- ② 文化財発掘調査による開発可能性（現状保存を要しないこと）の確認を進めています。

新駅は、新キャンパスへのメインアクセスとなるものであり、現キャンパスで整備する新 A 棟の玄関口にもなるため、本学としても確実に実現するよう、①・②ともに全面的に協力していくこととしています。

②の文化財発掘調査については、近鉄線の西側（グラウンド）と東側（患者用駐車場、テニスコート、クラブ棟ほか）の工区分け、昨年 7 月に、医大運営への影響が比較的少ない西側の工区から着手しました。

発掘調査は、体育の授業やクラブ活動への支障を抑えるため、グラウンドを半分残しつつ進めてきましたが、平成 30 年度から調査の本格化に伴い、グラウンド全面を使用しての調査となるため、新キャンパス用地に仮グラウンドを整備することとしています。

グラウンドの発掘調査は、平成 31 年度まで継続実施しますが、まちづくりの実現に向け、引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



Campus News

10.11 ～13 IT pro EXPO2017・デジタル ヘルス DAYSに出展しました

東京ビッグサイトにおいて IT proEXPO2017・デジタルヘルス DAYSが開催されました。「“サービス”と“技術”の連携がソーシャルホスピタルを実現する。」をテーマに医療・健康・介護の情報化に関する展示会で、クラウド、IoT、ウェアラブルなどの多彩な製品や技術の出展がありました。

本学からは MBT 研究所として、MBT コンソーシアム 参画企業とともにブース出展し、MBT 研究所の梅田智広研究教授が「動き出した、医学を基礎とするまちづくり～MBT 構想による日本版 CCRC の実現～」と題して講演しました。



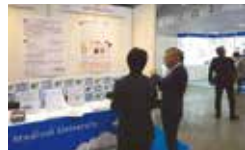
梅田研究教授の講演の様子



展示ブース

10.12 ～14 BioJapan2017に出展しました

パシフィコ横浜において、企業や大学等から創出された魅力的な研究成果の情報発信及び実用化に向けた産学連携を図ることを目的とした「BioJapan2017」が開催され、本学も出展しました。酒井教授による多数の聴講者に対してのプレゼンや、企業等との名刺交換等、活発な産学官交流を行った結果、その後も情報交換等の機会を得られており、今後の企業等とのマッチングに期待しています。



説明を行う酒井教授

【出展シーズ】

- 「備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤」
化学 教授 酒井 宏水
- 「骨形成促進効果を持つ機能的アパタイトの開発」
公衆衛生学 准教授 赤羽 学
- 「新アザン染色法—飽和ピクリン酸アゾカルミン G 染色液—」
病院病理部 副技師長 西川 武

10.26 ～27 第12回けいはんな ビジネスメッセに出展しました

京都府けいはんなプラザにおいて第12回けいはんなビジネスメッセが開催されました。これは、けいはんな発の新しい産業の創出や地域産業の活性化を目指し、産学官の連携



展示ブースの様子

やビジネスマッチングを推奨する展示会で、本学も産学連携の取り組みや MBT（医学を基礎とするまちづくり）について出展しました。本学の取り組みを発信する良い機会となりました。

10.27 高大連携教育を推進しています

本学では、高校生の理科に対する興味を高めるため、高校生を対象とした大学での講義、実習の体験学習を行っています。

今回は、平成 29 年 10 月 27 日に前年同様「カメ」をテーマにして、畝傍高校の生徒 12 名が参加しました。

僕はこの講座に昨年も参加していたので、カメの解剖は二度目になります。昨年と大きく違ったのは、カメが生きていたという点です。今回の講座で、カメを解剖するというなかなかできない経験をする事ができました。魚類以外の体の内側を観察することは普段ないので、とても貴重な経験となりました。

(2年男子生徒)

今まで解剖というものを一度もしたことがなかったので、今回、カメを解剖するという貴重な体験をすることができて本当によかったです。実際に自分の目で体内の構造を見て、手で触れて学ぶということは、教科書や資料集の文章・写真を見て学ぶだけの授業とはまったく異なり、多くの学べるがありました。

(2年女子生徒)



実習終了後の集合写真



実習の様子

10.29 「MBT 健康長寿フェア in 今井町 2017」を開催しました

今井町ゲストハウスのオープンに併せ、「健康」をテーマに橿原市今井町において「MBT 健康長寿フェア in 今井町 2017」を開催しました。当日は、台風接近による悪天候にみまわれ、一部内容が変更、中止を余儀なくされたにもかかわらず、多くの来場者があり、今井町ゲストハウスの内覧やアロマセラピー・漢方医学・生薬による癒やし、医師による医療相談など行い、盛況のうちに終えることができました。



ゲストハウスの内覧の様子



医療相談の様子

10.30
~11.11

チェンマイ大学附属病院で研修を受けました

C棟3階 看護師 小川 哲平

初めての海外研修で、言葉や食事などいろいろな不安のある研修でしたが、チェンマイ大学病院の看護部長はじめ、みなさんがとても親切で歓迎してくれ、食事もおいしく気候もよく、とても充実して楽しく研修期間を過ごせました。

13日間の研修で、前半は主に看護部の組織についての内容で、後半は心不全外来やICU、SCU、ERなどの各病棟へ行き、見学や講義をしていただきました。病院の教育のシステムや、さまざまな委員会などの情報を共有できるようなシステムが構築されており、各看護師の情報や、各ユニットの情報を活用するべく、情報を管理するセンターがあり、たくさんの情報が有効に活用できる仕組みができていました。また食事や休日まで一緒に連れただけ、何不自由のない研修でした。

2週間でいろいろな部署に行きましたが、どこに行っても仲が良く、チームワークをととても大切にしている印象でした。チーム医療がいわれている今日、このチームワークは必要不可欠であり、タイでの学びを生かして当院でも、各ユニットや病棟の風通しをよくしてチームワークを構築していきたいです。

技術の進歩も大切ですが、チェンマイでの2週間でとても親切で細かい気配りや人の温もりを感じました。患者さんにケアする気持ちの大切さをあらためて感じた2週間でした。

ขอบคุณมาก (ありがとう)



看護・実践キャリア支援センター 看護師 米川 由美

タイ北部チェンマイ大学との学術交流協定に基づく病院研修に行かせていただきました。チェンマイ大学病院は病床数1400を有する大規模な病院で、看護師の30%が修士号を有するという大変優秀な人材が多い病院でした。

この研修では、チェンマイ大学病院や看護部の様々な優れたシステムや教育体制について学ぶことができました。様々な場所を見せていただき、多くのレクチャーを受け、たくさんの知識を得ることができました。進歩したテクノロジーが多くありました。一方で仏教国であるタイの伝統的な医療や文化に触れ、たくさんの大切なものがあることを感じることも出来ました。

院内にはいつも看護師の優しいまなざしと気配りの心や温もりがありました。看護師はチームワークを大切にコミュニケーションを取り合っていました。病院や看護部のビジョンを達成するために皆同じ方向を向いて取り組んでいる姿を見ることができました。人同士のつながりや思いやり、患者さんへの思いが大切であることを改めて感じる事が出来ました。国の特色や問題、医療事情などの違いはあるけれど、看護師として本当に大切にしたいものは同じなのではないかということを感じました。

海外で学ぶということは難しいことも多かったですが、違う国の文化や医療事情・病院体制や教育について知り、看護に触れて学べたことは、今までの看護を振り返り、これからの看護を考えていく上でとても重要な経験となりました。国際交流で体験できたからこそ日本の良さに気付き、チェンマイの良さを沢山学んだからこそ奈良医大附属病院の素晴らしさを改めて知ることができました。この経験は、奈良医大附属病院で働くことについて考えるよい機会となりました。研修での学びを活かせるように行動していきたいと思えます。この研修の機会をいただけた事に感謝いたします。

11.1 今井町ゲストハウスが完成しました

本学は、県及び橿原市と連携したまちづくりを推進しており、このたび、今井町の重要伝統的建造物群保存地区の町家を活用したゲストハウスが完成しました。

オープンに先立ち、平成29年10月23日に今井まちなみ交流センター「華薨」で橿原市長をはじめ多くの来賓の皆様にご出席いただき、盛大に開所式および内覧会を開催しました。

今井町ゲストハウスの屋根や壁面は伝統的外観を維持し、内部は全4室で、キッチン、水洗トイレ、洗面台、シャワー室またはバスルームを完備しています。快適性に配慮しつつ、全室から中庭を臨む配置や木目を基調とした室内は、日本家屋の趣を呈しています。

今井町ゲストハウスは、本学で受け入れる外国人研究者や外国人留学生等の方々の滞在施設です。予約等の詳細については国際交流センターまでお問合せください(内線2479)。



細井理事長・学長より開所式開会の挨拶



今井町ゲストハウス

11.4
11.5

平成29年度白檀生祭のご報告

白檀生祭実行委員長 梶田 直希

落葉した樹々の凛とした姿に暮れ行く秋を感じるようになった、平成29年11月4日、5日に平成29年度白檀生祭を開催させていただきました。

本年度は「Break the Wall ~ Build the Bridge ~」というテーマを掲げました。この白檀生祭を通して、我々奈良医大生が、「医療を取り巻く様々な壁を壊し、架け橋となる」という思いをもち、今後の学生生活、延いては医療従事者としての人生に活かせるようになればと思っております。

平成29年度白檀生祭を開催するにあたり、ご協力いただきました近隣の皆様方、お忙しい中、パンフレットに掲載して下さった病院、企業、店舗各位、様々な形で協力して下さいました教室、同窓会各位、ご指導ご鞭撻下さった諸先生方、アドバイス下さった先輩方にはこの場をお借りして実行委員一同より深く御礼申し上げます。



11.13

組換えDNA実験安全委員会講演会を開催しました

組換えDNA実験安全委員会の講演会を開催し、文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室 専門職 中西健介氏にご講演いただきました。

「カルタヘナ法について」と題し、カルタヘナ法の趣旨、留意事項や過去の事例を元にした問題発生時の対応等についての説明があり、組換えDNA実験を安全に実施することがなにより大切であるとお話いただきました。



中西健介氏

11.16
11.17

訪問看護の同行実習を行いました

B棟4階 看護師 山田 浩史

訪問看護同行実習を終えて、在宅では患者さんの生活背景に応じた医療を行わなければいけないと学びました。高齢化が進み患者さんの治療内容に対する理解や核家族化による家族の援助の有無、制度により受けられるサービスを把握し、入院時から退院後に在宅でどのように過ごされるのかを考えて介入する必要があります。入院中に受けていた医療を在宅でも継続出来るよう患者さんひとりひとりに応じた内容に変更し、不安なく自宅療養出来るよう関わりたいと思います。

創傷相談室 看護師 西林 直子

平成29年11月16日・17日の2日間、訪問看護の同行研修で多くの学びを得ました。特に、訪問看護師の観察眼は深いだけでなく、視野が広く、訪問看護師の看護観があふれた言葉がけは非常に感銘を受けました。そして、患者と家族が、地域と今どのように繋がっているか、今後どう繋がりたいかという考え方を大切にされていました。今後、自分も病院看護師として、患者と家族の視点で“繋がり”を意識した情報収集や情報提供に努め、療養を支援したいと思います。



実習前の研修の様子

11.20

特別共同研究助成事業実績報告会を開催しました

本学では、複数の講座・領域等で取り組む共同研究活動を助成し、研究活動の一層の活性化を推進するため、特別共同研究助成事業を実施しています。

このたび、助成事業が終了した研究課題（H27-H28）について実績報告会を開催しました。

「個別化医療モデルの作成を目指した泌尿器癌抗癌療法抵抗性を規定する遺伝的要因と癌微小環境中免疫細胞の役割の解明」

泌尿器科学 教授 藤本 清秀

「パーキンソン病とサーカディアンリズムに関する前向きコホート研究」

神経内科学 講師 形岡 博史



泌尿器科学 教授 藤本清秀



神経内科学 講師 形岡博史

12.1 医学部医学科「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました

平成 29 年 12 月 1 日に、本学大講堂において、医学科 4 年生 109 名の Student Doctor 認定証・白衣授与式を行いました。

細井学長をはじめ、先生方から激励のお言葉をいただき、その後、代表学生 4 名に対し、学長から「Student Doctor 認定証」が手渡され、続いて学長・医学部長・附属病院長・医学科同窓会長が、それぞれ同窓会から寄贈いただいた白衣を授与しました。白衣授与後、学生代表の階戸尊さんが、臨床実習において医師となる自覚と責任を培っていくことを宣誓しました。



12.6 「FUN + WALK PROJECT」トライアルデーに参加しました

「FUN + WALK PROJECT」は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、日常生活の中で「歩く」を促進し、スポーツ参画人口の拡大を通じて国民の健康増進を図るスポーツ庁の官民連携プロジェクトです。

このたび標記プロジェクトのトライアルデーに本学MBT研究所は全国の教育研究機関で唯一参加しました。

当日は、橿原市今井町で健康みはりメッセージや気象情報を配信するMBTウォッチや、バイタル計測Tシャツのデモンストラーションを行いました。



今井町でのウォーキングの様子



MBT ウォッチ着用中の細井理事長・学長

12.7 奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました

聖路加国際病院 リウマチ膠原病センター 副院長 津田篤太郎先生を講師にお迎えした、「実技で学ぶ漢方」～ココを診れば（触れば）漢方的所見がわかる～を開催しました。今回は、4回シリーズの3回目、かぜと漢方や消化器官症状と漢方の処方について症例を元に聴講の先生方に解説されました。



講演中の津田先生

次回の予定は、

2月8日(木) 18:30～20:00 蔵櫃会館 大ホール
「漢方薬の使い方②」

～漢方薬が効かなかった時の次の一手を知る～

次回も多数の先生方のご参加をお待ちしております。



講演の様子

12.9

第7回西日本医学生 学術フォーラム2017を開催しました

第7回西日本医学生学術フォーラム2017を本学厳櫃会館で開催し、約60名が参加しました。

このフォーラムは、東海地方から九州地方に至る西日本の多くの大学から、医学科学生が集い、学生の枠を超えて医学研究の発表や議論を通し、懇親を深めていこうという目的で開催しています。

当日は本学の学生をはじめ、10名の口演発表と、20名のポスター発表を行いました。

今回は、三重大学で開催される予定です。興味のある学生は、是非参加してください。



12.10

柔道家の篠原信一さんと消化器・内分泌代謝 内科の吉治教授がトークショーを行いました

平成29年12月10日に、奈良マラソン2017 EXPO会場特設ステージで、本学の消化器・内分泌代謝内科 吉治仁志教授と柔道家の篠原信一さんが、最近の肝炎診療についてトークショーを行いました。今後も、ここ数年で治療が大きく変化したC型肝炎治療についての啓蒙活動などを行っていきます。



12.14

ライフサイエンス新技術説明会 ～医療系大学～で研究シーズを発表しました

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）主催の医療系大学における新技術説明会において、化学教室酒井宏水教授が「備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤」について、発表を行いました。新技術説明会は、大学等の研究機関の研究者がシーズ発表を行い、産業界とのマッチングを図るもので、JSTが産業界に広報活動を行い、シーズに興味を持つ企業が聴講し、発表後に企業との個別面談により連携に向けた協議を行います。発表後は多くの企業との個別面談を行いましたので、今後の企業とのマッチングが楽しみです。



発表中の酒井教授



発表後の企業との名刺交換

12.21

健康長寿大規模コホート研究助成 事業進捗状況報告会を開催しました

本学では、中期計画で取り組むこととされている奈良県健康長寿コホートスタディ（健康長寿を維持させる要因を多面的に研究する県下全域の10,000人を対象とした疫学調査）を推進し、研究成果の地域還元、地域住民の健康意識高揚などを通じた地域貢献を図るため、平成27年度から4年間の予定で健康長寿大規模コホート研究助成事業を実施しています。このたび、助成中の3研究課題について進捗状況報告会を開催しました。

「奈良県における循環器医療の質の向上と
循環器病地域包括ケア構築に資する実態調査」

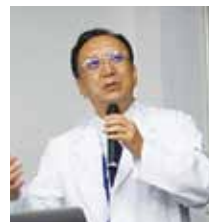
内科学第一 教授 齋藤 能彦
(現：循環器内科学)

「手術後機能障害の発生とその関連因子についてのコホート研究」

麻酔科学 教授 川口 昌彦

「温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する前向きコホート研究」

疫学・予防医学 教授 佐伯 圭吾



内科学第一 教授
齋藤能彦
(現：循環器内科学)



麻酔科学 教授
川口昌彦



疫学・予防医学 教授
佐伯圭吾

Winner Report

4.13 第73回日本放射線技術学会総会学術大会で CyPos賞 (Bronze Award) を受賞しました

中央放射線部 主査 間井 良将

「Physical evaluation of Extremely-low-spatial-frequency image processing in Examination of Knee joint and Lumbar Spine」のタイトルで、新しく開発されたX線単純撮影における画像処理技術である“超低周波強調処理”が、膝関節および腰椎撮影においてコントラストを改善する効果があることを検証しました。初めての英語発表でとても緊張しましたが、優秀な演題として表彰されたことは非常に光栄なことであり、今後の励みにしたいと思います。



4.15 第73回日本放射線技術学会総会 学術大会で梅谷賞を受賞しました

中央放射線部 係長 中前 光弘

社会活動の一環として主宰している「関西地区 CR 研究会」の活動に対して、学会の名誉ある賞をいただき、第73回総会学術大会の定時総会の席上で表彰式が行われました。

学会の活動とは別に近畿を中心に西日本の診療放射線技師の卒業教育の一端を担う研究会を年間4回開催し、超基礎講座や初学者のための書籍を2冊

発刊するなど、放射線技術学の教育活動に対して評価していただきました。この場をお借りして、平素より活動に対して多大なるご理解とご協力をいただきました部長 吉川公彦教授、吉峰正技師長に深謝いたします。



5.21 日本放射線技術学会第60回近畿支部学術 大会にて新人奨励賞を受賞しました

中央放射線部 技師 下口 翼

新人の登竜門である近畿支部学術大会で「散乱線補正処理はグリップを上回っているのか～臨床画像での検討～」と題して発表した内容で、新人奨励賞を受賞させていただきました。新しい画像処理技術について、先輩方が基礎研究を重ねられ臨床で提供している画像の評価をおこなった成果を評価していただきました。平成29年5月21日に開催されました春季勉強会の席で表彰状を受け取り、この感動を忘れずに益々精進して行きたいと考えています。



6.17 第98回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会で Young Endoscopist 賞を受賞しました

内科学第三 医員 森 仁志

この度、第98回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会において、「多発性のSMT様隆起を呈した胃サルコイドーシスの一例」という発表で Young Endoscopist 賞を受賞することが出来ました。サルコイドーシスが胃に発生することは稀であり、様々な内視鏡像から胃癌や悪性リンパ腫などとの鑑別を要します。本症例では、超音波内視鏡検査も施行しており、貴重な症例と考え、発表しました。受賞に際し、御指導いただきました先生方に深く御礼申し上げます。



6.24

第16回日本肝がん分子標的治療研究会で優秀ポスター賞を受賞しました

内科学第三 診療助教 才川 宗一郎

この度、平成29年6月24日に開催されました第16回日本肝がん分子標的治療研究会において優秀ポスター賞を受賞させていただきました。演題は「Angiotensin-II 受容体阻害薬による Hippo-YAP 経路を介した肝内胆管癌抑制効果」です。手術適応外の肝内胆管癌に対する治療効果はいまだ限局的であり、早期の治療戦略開発が急務となっています。そこで Hippo-YAP 経路が肝内胆管癌の増殖を抑制することに着目し、既存の薬剤である Angiotensin-II 受容体阻害薬が同シグナルを介して肝内胆管癌進展を抑制する可能性を示した研究です。受賞に際しまして、吉治教授をはじめ、ご指導いただきました先生方に心より感謝申し上げます。



7.15

第23回癌治療増感研究会で第18回菅原賞を受賞しました

放射線腫瘍医学 教授 長谷川 正俊

平成29年7月15日、長野県の軽井沢プリンスホテルで開催された第23回癌治療増感研究会において、第18回菅原賞を受賞しました。本賞は、国際癌治療増感研究協会の設立、発展に尽力され、国際的な癌治療増感研究の進歩に大きく貢献された故菅原努先生の栄誉をたたえて設置された賞で、同協会および癌治療増感に関する研究で多大なる貢献があった研究者に贈られています。受賞にあたり、放射線腫瘍医学講座の諸氏および本学名誉教授で平成29年7月8日に亡くなられた大西武雄先生に深謝申し上げます。



8.8

平成29年度第2回若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

平成29年度（第2回）若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、下記の3名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

年3回募集していますので、今後も積極的なご応募をお待ちしています。

所属	職名	氏名
泌尿器科学	医員（大学院生）	後藤 大輔
化学	助教	松平 崇
リハビリテーション科	診療助教	塚本 真治

9.16

第217回内科学会近畿地方会で若手奨励賞最優秀賞を受賞しました

内科学第三 医員 尾崎 邦彰

平成29年9月16日に開催された第217回内科学会近畿地方会にて、「陰茎発育不良を契機に発見された Kallmann 症候群の1例」について発表させていただきました。同発表にて若手奨励賞最優秀賞をいただくことができました。賞を頂けたことは大変喜ばしく、指導医の皆様感謝するとともに、これを励みに今後も研鑽を積んでいきたいと考えています。

9.23
~24

第58回日本組織細胞化学会学術総会で学会賞（高松賞）を受賞しました

解剖学第一 教授 西 真弓

平成29年9月23～24日に愛媛県東温市の愛媛大学医学部で開催されました第58回日本組織細胞化学会学術総会におきまして、学会賞（高松賞）を受賞致しました。本学会賞は、組織細胞化学の技術の基礎及び応用研究の進歩に大きく貢献し、本学会の発展に指導的役割を發揮した研究者に授与されるものです。この受賞を一つのステップとして、より一層研究に精進して参りたいと思います。



Winner Report

10.13

World Academic Championship-2017 in Nursing for outstanding scientific contributionsを受賞しました

老年看護学 教授 澤見 一枝

助教 木村 満夫

医療技術センター 副技師長 北村 哲郎

これは、私たちが平成 29 年 5 月に出した論文の『Achievement of Brain Training Course for the Elderly』 ジャーナル名: Journal of Health Education Research & Development に与えられた賞です。これは毎年 1 回論文を審査して与えられる賞で、2017 年 10 月に受賞いたしました。

これは、高齢者の脳トレーニングにおいて、音楽に合わせた『リズムフレーズ』で記憶すると記憶が残りやすいという方法の開発と、認知テストの結果と血管年齢の若さが相関していたこと、筋肉量や下肢の運動能力と認知得点が相関していたことを発表した論文です。

本発表に際し、ご協力いただきました音楽療法の関係者様、自治会長様、ご参加いただきました高齢者様に心から感謝申し上げます。今後さらに精進して参りたいと存じますので、皆様にはどうぞご指導賜りますようお願い申し上げます。



10.14

第 25 回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2017) でポスター優秀演題賞を受賞しました

消化器・総合外科学 学内講師 赤堀 宇広

平成 29 年 10 月 14 日に開催された第 25 回日本消化器関連学会週間において、ポスター優秀演題賞を受賞いたしました。受賞演題名は、「肺癌に対する新規治療 S-1/オキサリプラチン/イリノテカン併用療法 (SOXIRI) 第 2 相試験」です。本第 2 相試験は、関西医科大学と共同で行ったもので、切除不能肺癌の新規治療レジメ (SOXIRI) の安全性と効果を検証したものです。今後とも様々な臨床研究を通し、肺癌の予後向上を目指していきたいと考えております。本受賞にあたり、ご指導いただきました庄教授はじめ、同僚の先生方に深く感謝申し上げます。



10.15

第 19 回臓器移植推進国民大会で臓器移植推進功労者厚生労働大臣感謝状を贈呈されました

透析部 部長 吉田 克法

平成 29 年 10 月 15 日に東京イノホールで開催されました「第 19 回臓器移植推進国民大会」で臓器移植の推進および移植医療の普及・向上の功績に対して厚生労働大臣より感謝状の贈呈がありました。

奈良医大を卒業後、腎不全を専門にして奈良県の腎移植の普及に努めてまいりました。日本移植学会でも臓器移植推進啓蒙活動を積極的に推進してきましたが、これからもますます腎臓移植の普及に努力したいと思います。

10.19
~ 21

第 45 回日本放射線技術学会秋季学術大会で優秀演題賞を受賞しました

中央放射線部 主査 宮島 祐介

X 線単純撮影における新しい画像処理技術である“超低周波強調処理”を用いた頸椎および腰椎の臨床画像の評価について発表しました。春の総会学術大会では、「Physical evaluation of Extremely-low-spacial-frequency image processing in Examination of Lateral Cervical Spine」と題した基礎研究を英語で発表しましたが、その継続研究を臨床画像で検証した内容でした。

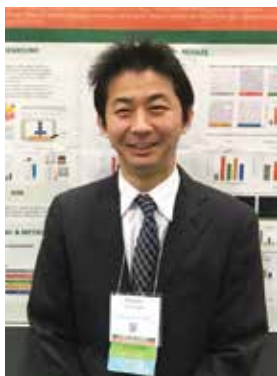
同僚の間井も「足および足関節荷重撮影における超低周波強調処理の臨床評価について」で発表し、505 演題の中で上位 20 演題に贈られる“優秀演題賞”を二人揃って受賞できたことは、非常に光栄なことであり奈良医大から優秀な研究成果が発表できていることに自信が持てました。



10.20 ~ 24 **アメリカ肝臓学会 (AASLD) The Liver Meeting 2017で優秀ポスター賞を受賞しました**

内科学第三 助教 下里 直隆

平成 29 年 10 月 20 日から 24 日までワシントン DC で開催されたアメリカ肝臓学会 (AASLD) The Liver Meeting 2017 のポスター発表セッションにおきまして、優秀ポスター賞を受賞しました。演題は「Beneficial effects of combined farnesoid X receptor agonist (INT747) and dipeptidyl peptidase-4 inhibitor (sitagliptin) on hepatic fibrogenesis in a rat model of non-alcoholic steatohepatitis」で、新規薬剤である FXR アゴニストと 2 型糖尿病治療薬である DPP4 阻害薬の併用により、非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) における肝線維化進展を強力に抑制できたという研究発表です。今回の発表に際しご指導を頂きました吉治仁志教授ならびに多くの先生方に深く御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



11.13 **2017 年度 武田科学振興財団の特定研究助成を受賞しました**

脳神経システム医科学 教授 坪井 昭夫

このたび、筆者が代表として、脳神経外科学の中瀬裕之教授、麻酔科学の川口昌彦教授、第一生理学の齋藤康彦教授らと共に申請した研究課題が、本年度の武田科学振興財団の特定研究助成 (3,250 万円) に採択されました。本研究助成は 3 年以上の長期にわたるもので、対象となった研究題目「新生ニューロンによる神経回路の再編機構の解明と脳血管障害の新規治療法の創出」は、基礎医学研究で得られた「健常脳における神経新生・再生の分子機構」という成果を、一貫通貫的に「障害脳における神経修復・再建」という臨床医学的な応用につなげるものです。したがって、本研究プロジェクトは新設された「脳卒中センター」と連携することにより、本学を挙げて取り組む「重点研究プロジェクト」の一翼を担うものであると考えています。



11.13 **2017 年度 武田科学振興財団の医学系研究奨励を受賞しました**

未来基礎医学教室 特任講師 森 英一郎

平成 29 年 11 月 13 日に、東京で開催された、2017 年度 武田科学振興財団研究助成金・奨励金贈呈式で、医学系研究奨励<精神・神経・脳領域> (200 万円) を受賞しました。受賞対象となった研究題目は、「成体脳の構造を再現したヒト脳オーガノイドの樹立」です。既存のヒト脳オーガノイド (試験管内で作成した臓器) 樹立プロトコルの改良により、オリゴデンドロサイトおよび有髄神経線維を有するヒト脳オーガノイドを作製し、ヒト成体脳の構造を試験管内で再現することを目的としています。本受賞を励みに、今後益々、研究に精進したいと思います。



11.23 **奈良県放射線技師会 65 周年記念式典で奈良県知事表彰を受賞しました**

中央放射線部 副技師長 安藤 英次

平成 29 年 11 月 23 日に、奈良県から奈良県知事表彰 (医療業務功労者) を (公社) 奈良県放射線技師会の 65 周年記念式典において受賞しました。この賞は、私が奈良県において 37 年間にわたり診療放射線技師として放射線診療に従事し、今は廃止された奈良県立がんセンター診療部を経て、当院の中央放射線部副技師長を歴任し先進的医療の提供と地域医療の発展に貢献したことに對して表彰されました。これを機に放射線診療の一層の発展につながる放射線業務に寄与して参る所存です。



Winner Report

11.25

第24回肺塞栓症研究会学術集会で優秀演題賞を受賞しました

産婦人科学 講師 川口 龍二

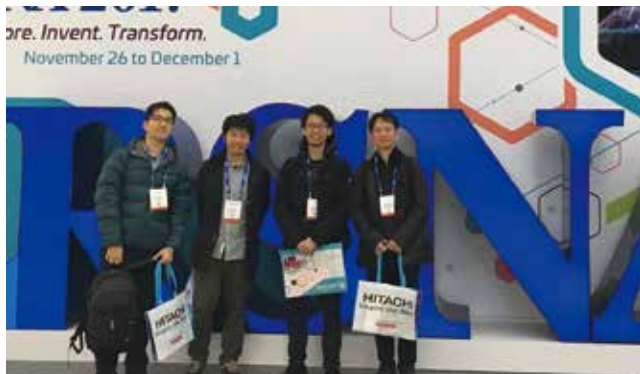
平成29年11月25日に東京で開催された第24回肺塞栓症研究会学術集會に参加してきました。要望演題として「VTE（静脈血栓塞栓症）に対する予防の現状」がとりあげられ、私は「婦人科周術期における静脈血栓塞栓症予防のこれまでと今後について」のタイトルで発表いたしました。当教室では、周術期の静脈血栓塞栓症の予防に積極的に取り組んできましたが、その内容が評価され、このたび優秀演題賞を受賞いたしました。受賞にあたり、長年、VTE予防の取り組みのご指導をいただいた産婦人科教室の小林浩教授、ともに静脈血栓症の研究を行ってきた南奈良医療センターの春田祥治先生、症例を登録していただいた婦人科の先生方に深謝をしたいと思います。

11.26
~12.1

第103回北米放射線学会のEducation ExhibitでCertificate of Meritを受賞しました

総合画像診断センター 講師 丸上 永晃

第103回北米放射線学会（RSNA 2017）のEducation ExhibitでCertificate of Meritを受賞することができました。演題は「Urological malignant lymphoma: multimodality imaging and differential diagnosis」で、当院で経験した泌尿器領域の悪性リンパ腫の画像を集積し、悪性リンパ腫と疑うべき臨床的・画像診断学的な着眼点や、鑑別すべき疾患との鑑別点をわかりやすくまとめてみました。大量のCT、MRI検査で溺れるように検査所見を付ける日々の中では、様々な“着眼点”を持ったルーチン読影が大切です。カンファレンスや日々の症例などでお世話になっている泌尿器科の先生方にこの場をお借りして心から感謝申し上げます。



11.30

公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団より第37回助成金が交付されました

内科学第三 助教 鍛冶 孝祐

公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団より内科学第三講座 鍛冶孝祐助教の研究課題「TGR5 アゴニストと DPP4 阻害薬併用による新たな非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）治療法の確立」へ助成金が交付されました。本研究助成は同財団より「より豊かな生活に貢献する医療技術に関する研究」や「生活習慣病における医学、薬学の萌芽的研究」に対して交付されるもので、今年は300件近い応募の中から94件が採択されています。



11.30

平成29年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました

受賞者 内科学第一（現：循環器内科学）

医員 中田 康紀

消化器・総合外科学 診療助教 長井 美奈子

精神医学 助教 松岡 究

平成29年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者に、本学から上記の3名の先生方の受賞が決定しました。

奈良県医師会学術奨励賞は、奈良県における若き医学徒の学術を奨励するために、奈良県医師会により贈呈される賞です。

平成29年11月30日に奈良県医師会館にて授与式が行われ、受賞された先生方には、賞状及び副賞が贈呈されました。

毎年3月頃に応募案内を配布しています。若手研究者の方々の積極的なご応募をお待ちしています。

内科学第一（現：循環器内科学）
医員 中田康紀消化器・総合外科学 診療助教
長井美奈子

精神医学 助教 松岡究

12.3 Nara Medical University's own Yuki Uegaki takes first prize!

In 2015 Nara Medical University (NMU) celebrated its 70th anniversary with a promise to lead Japan into a new era of clinical English education; For the first time a professor of "clinical English" (Professor Bolstad) was appointed, a committee was formed to revitalize NMU's English department, student teacher ratios were dramatically improved from as many as 60 students per class to the current level of 20 students per class, optional extension classes were provided free of charge to all students, and perhaps most importantly the English syllabus was revised to focus on fluency and communication.

It has only been 2 and a half years since these changes and while improvements are still being made it is now possible to see some of the advantages that these improvements have made for students.

One student who has taken full advantage of the changes at NMU (attending both lunch chat groups and extension classes) is Yuki Uegaki. Yuki is a rising star in NMU's English Speaking Society (ESS) club (reopened in 2015). Yuki recently

won the Presidential Trophy in Ryukoku University's 47th English Oratorical Contest. Open to students from all disciplines and universities the competition allows students to test and improve their English in a truly competitive environment.

When asked about the experience Yuki commented that "in the contest, all the speakers were highly motivated! It was such a valuable experience to listen to their speeches. I think the quality of the speakers is very important to make a contest better!".

As Yuki's comments show it is important for NMU to continue to support students in their efforts to use English as this allows them to be exposed to other students, both Japanese and foreign, who are working hard to take their place in the new global community.



12.7 神澤医学研究振興財団・平成 29 年度 (第 21 回) 研究助成金を受賞しました

未来基礎医学教室 特任講師 森 英一朗

この度、「ヒト脳オーガノイドを用いたエストロゲン欠乏に伴う精神症状の解明」を研究テーマとして、神澤



医学研究振興財団・平成 29 年度 (第 21 回) 研究助成金 (200 万円) を受賞しました。本研究課題は、本学・産婦人科学教室・教授・小林浩先生との共同研究です。本研究では、エストロゲン分泌の減少に伴ってうつ状態や易怒性など、更年期障害に特徴的な精神症状が生じるメカニズムを解明し、治療法開発につながる科学的知見を得ることを目指しています。本受賞を励みに、今後益々、研究に精進したいと思います。

平成 29 年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました

この度、下記の方々が平成 29 年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました。

これは、大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に長年従事され、顕著な功績のあった方を対象に授与されています。

B 病棟 5 階 看護師 有田 富美子 氏

中央臨床検査部 技師 高田 穂波 氏

Winner Report

平成 29 年度 外部資金獲得状況

134 件 469,888,409 円 (間接経費を含む) (平成 29 年 12 月 15 日現在) ※文部科学省科学研究費助成事業を除く

(1) 平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	病床機能の分化・連携や病床の効果的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	行政機関や食品企業における食品防御の具体的な対策に関する研究
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	社会構造の変化を反映し医療・介護分野の施策立案に効果的に活用し得る国際統計分類の開発に関する研究
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	HIV 感染症を合併した血友病患者に対する全国的な医療提供体制に関する研究
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療職種間におけるタスク・シフティング等についての研究

② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	難病患者の福祉サービス活用による ADL 向上に関する研究	国立障害者リハビリテーションセンター 深津 玲子
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	病床機能の分化・連携や病床の効果的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究	公衆衛生学 今村 知明
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	准教授	赤羽 学	行政機関や食品企業における食品防御の具体的な対策に関する研究	公衆衛生学 今村 知明
食品の安全確保推進研究事業 (カネミ油症に関する研究)	公衆衛生学	准教授	赤羽 学	食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究	九州大学 古江 増隆
難治性疾患等政策研究事業 (免疫アレルギー疾患等政策研究事業 [免疫アレルギー疾患政策研究分野])	整形外科	教授	田中 康仁	糖尿病及び慢性腎不全による合併症足潰瘍・壊疽等の重症下肢虚血重症化の予防に関する実態調査	医療法人 社団 廣仁会 褥瘡・創傷治療研究所 大浦 武彦
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	既存データベースの活用による虚血性心疾患・大動脈疾患診療の実態把握ならびに医療体制構築に向けた指標の確立のための研究	大阪大学 坂田 泰史
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	既存データベースの活用による虚血性心疾患・大動脈疾患診療の実態把握ならびに医療体制構築に向けた指標の確立のための研究	大阪大学 坂田 泰史
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	ドクターヘリの適正配置・利用に関する研究	東海大学 猪口 貞樹
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	輸血部	教授	松本 雅則	血液凝固異常症等に関する研究	慶應義塾大学 村田 満
障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	高次脳機能障害者の社会的行動障害による社会参加困難への対応に関する研究	国立障害者リハビリテーションセンター 中島 八十一
新興・再興感染症及び 予防接種政策推進研究事業	感染症センター	准教授	笠原 敬	成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究	国立感染症研究所 大石 和徳
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療情報の適切な評価・提供及び公表等の推進に関する研究	聖路加国際大学 福井 次矢
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	形成外科	病院教授	桑原 理充	肥厚性皮膚骨膜炎の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究	国立成育医療研究センター 新関 寛徳
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	島根大学 森田 栄伸
地域医療基盤開発推進研究事業	麻酔科学	教授	川口 昌彦	麻酔科標榜資格を保持している医師の実態把握に関する研究	順天堂大学 福田 英一
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	救急医療体制の推進に関する研究	一般財団法人 救急振興財団 山本 保博
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	バイオテクノロジーを用いて得られた食品のリスク管理及び国民受容に関する研究	東京農業大学 五十君 静信
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	難治性めまい疾患に関する調査研究	徳島大学 武田 憲昭
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	輸血部	教授	松本 雅則	循環器難病に伴う後天性フォンウィルブランド症候群の診断基準・重症度分類の確立	東北大学 堀内 久徳
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	神経内科学	教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患に関する調査研究	東北大学 青木 正志
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	栄養管理部	病院教授	吉川 雅則	難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	千葉大学 巽 浩一郎
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	神経内科学	教授	杉江 和馬	スモンに関する調査研究	国立病院機構鈴鹿病院 小長谷 正明
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	患者調査等、各種基幹統計調査における NDB データの利用可能性に関する評価	京都大学 加藤 源太
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	整形外科	講師	谷口 晃	早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究	千葉大学 横手 幸太郎
政策科学総合研究事業 (臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業)	第一内科学	教授	斎藤 能彦	電子カルテ情報をセマンティクス (意味・内容) の標準化により分析可能なデータに変換するための研究	国立循環器病研究センター 宮本 恵宏

難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	第一内科学	教授	斎藤 能彦	特発性心筋症に関する調査研究	九州大学 筒井 裕之
厚生労働科学特別研究事業	公衆衛生学	学内講師	岡本 佐和子	医療職種間におけるタスク・シフティング等についての研究	公衆衛生学 今村 知明
厚生労働科学特別研究事業	薬剤部	次長	池田 和之	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の策定に関する研究	一般財団法人 日本病院薬 剤師会 土屋 文人

(2) 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	主任研究者名等
循環器病研究開発費	精神医学	准教授	安野 史彦	心血管リスクに伴う認知症発症機序の解明とその解決	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 猪原 匡史
循環器病研究開発費	第一内科学	教授	斎藤 能彦	循環器疾患診療実態調査 (JROAD) における JROAD-DPC と臨床データの Validation に関する研究	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 安田 聡

(3) 経済産業省

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
戦略的基盤技術高度化支援事業	産婦人科学	教授	小林 浩	低侵襲に子宮内膜症の悪性化を評価できる光学経腔プローブの開発

(4) 農林水産省

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
農林水産政策科学研究委託事業		理事長・ 学長	細井 裕司	「大和漢方」の産地形成と薬用作物の園芸療法を通じた医学エビデンスにもとづく「農村医療観光」による6次産業の創出

(5) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
橋渡し研究加速ネットワークプログラム	公衆衛生学	准教授	赤羽 学	骨形成促進効果を持つ機能的生体材料の開発に関する基礎研究
橋渡し研究加速ネットワークプログラム	麻酔科学	助教	新城 武明	球海綿体反射モニタリングに対応する神経刺激電極付き尿道カテーテルの開発
臨床研究・治験推進研究事業	化学	教授	酒井 宏夫	備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究
革新的先端研究開発支援事業	物理学	講師	高木 拓明	1分子・質量イメージング顕微鏡の開発と細胞膜機能解析
感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業	小児科学	教授	嶋 緑倫	血友病とその治療に伴う種々の合併症克服に関する研究
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	機械的補助循環に合併する後天性 von Willebrand 症候群の治療法の開発
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	助教	早川 正樹	機械的補助循環に合併する後天性 von Willebrand 症候群の治療法の開発
医薬品等規制調和・評価研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	植込型補助人工心臓装着後の出血性合併症予知法および予防法の確立に関する研究
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	助教	早川 正樹	植込型補助人工心臓装着後の出血性合併症予知法および予防法の確立に関する研究
長寿・障害総合研究事業	精神医学	教授	岸本 年史	児童・思春期における心の健康発達・成長支援に関する研究
革新的がん医療実用化研究事業	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学	講師	太田 一郎	進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究
感染症実用化研究事業	健康管理センター	病院教授	古西 満	ART 早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究
難治性疾患実用化研究事業	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学	教授	北原 紘	難治性めまい疾患の診療の質を高める研究
循環器疾患・ 糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	第一内科学	助教	岡山 悟志	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業
循環器疾患・ 糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	救急医学	教授	奥地 一夫	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業
臨床研究等 ICT 基盤構築研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療の質向上を目的とした臨床データベースの共通プラットフォームの構築
医薬品等規制調和・評価研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	さらなる適正使用に向けた、血液製剤の使用と輸血療法の実施に関する研究
難治性疾患実用化研究事業	神経内科学	助教	桐山 敬生	視神経脊髄炎の再発に対するリツキシマブの有用性を検証する第Ⅱ / Ⅲ相多施設共同プラセボ対照無作為化試験
循環器疾患・ 糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	第一内科学	助教	岡山 悟志	慢性心不全患者に対する多職種介入を伴う外来・在宅心臓リハビリテーションの臨床的效果と医療経済的效果を調べる研究
長寿・障害総合研究事業	精神医学	助教	松田 康裕	オリジナルソフトによる認知機能リハビリテーションと援助付き雇用を組み合わせた精神障害者の就労や職場定着支援の効果検証と普及方法の開発
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) の複合的アプローチによる診断と治療向上に関する研究
女性の健康の包括的支援実用化研究事業	産婦人科学	教授	小林 浩	子宮内膜症の病態解明、および予防・治療法の開発
難治性疾患実用化研究事業	小児科学	准教授	野上 恵嗣	突発性血栓症患者のゲノム情報を用いた層別化による病態解明研究
循環器疾患・ 糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	第一内科学	講師	川上 利香	心不全の発症・重症化の高精度予測とそれに基づく最適な治療戦略の開発
免疫アレルギー疾患等実用化研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	免疫アレルギー疾患等実用化研究事業・免疫アレルギー疾患実用化研究分野
臨床研究・治験推進研究事業	眼科学	教授	緒方 奈保子	Brikkiant Blue G250 による水晶体前囊可視化検討第 3 相多施設共同医師主導治験
難治性疾患実用化研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録観察研究
難治性疾患実用化研究事業	小児科学	教授	嶋 緑倫	新生児・乳児に発症する突発性血栓症の病態解明および治療管理法と根治療法の確立に関する研究
難治性疾患実用化研究事業	総合周産期母子 医療センター (NICU)	病院教授	西久保 敏也	新生児・乳児に発症する突発性血栓症の病態解明および治療管理法と根治療法の確立に関する研究

Winner Report

感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業	生体分子不均衡 制御学 (共同研究講座)	教授 (共同研究講座)	永森 収志	次世代抗B型肝炎ウイルス薬導出に向けた創薬研究
革新的先端研究開発支援事業ユニットタイプ「メカノバイオロジー機構の解明による革新的医療機器及び医療技術の創出」	生体分子不均衡 制御学 (共同研究講座)	教授 (共同研究講座)	永森 収志	機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開
次世代がん医療創生研究事業	生体分子不均衡 制御学 (共同研究講座)	教授 (共同研究講座)	永森 収志	がんのアミノ酸代謝特性を標的にした治療法の開発
橋渡し研究戦略的推進プログラム	生体分子不均衡 制御学 (共同研究講座)	教授 (共同研究講座)	永森 収志	がん特異的アミノ酸輸送体阻害作用を有する抗がん剤の臨床 POC 取得
地域横断的 ICT 活用医療推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	レセプト等の大規模電子診療情報を活用した薬剤疫学研究を含む医療パフォーマンス評価に関する研究
地域横断的 ICT 活用医療推進研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	レセプト等の大規模電子診療情報を活用した薬剤疫学研究を含む医療パフォーマンス評価に関する研究
臨床研究等 ICT 基盤構築研究事業	病理診断学	教授	大林 千穂	AI等の利活用を見据えた病理組織デジタル画像 (P-WSI) の収集基盤整備と病理支援システム開発
臨床研究等 ICT 基盤構築研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	新たなエビデンス創出のための次世代 NDB データ研究基盤構築に関する研究

(6) 公益社団法人 日本医師会 治験促進センター

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
臨床研究・治験推進研究事業	第一内科学	教授	斎藤 能彦	治験の実施に関する研究 [エブレノン]

(7) 国立研究開発法人 科学技術振興機構

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
戦略的創造研究推進事業		理事長・学長	細井 裕司	空き家活用によるまちなか医療の展開とまちなみ景観の保全
研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム	第二内科学	准教授	山内 基雄	ストレスや疾病状況を把握するための連続的かつ非拘束呼吸・循環モニターの開発
研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム	麻酔科学	教授	川口 昌彦	五感を利用した Effective Medical Creation (EMC) の実践
研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	温度・光環境とサーガディアンリズムに関するコホート研究

(8) 独立行政法人 国際協力機構

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	ベトナム国難聴者聴覚検査・診断器普及促進事業

(9) 公益財団法人全国競馬・畜産振興会

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
オリンピック・パラリンピック東京大会における食品テロ防止対策事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	オリンピック・パラリンピック東京大会における食品テロ防止対策事業

(10) 東京都

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
東京都次世代イノベーション創出プロジェクト 2020	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	特任講師	和田 佳郎	重力感受性障害の検査・診断・治療装置の開発

(11) 名張市

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業

(12) その他 財団法人等

団体名等	所属	職名	氏名	研究課題名
ノバルティスファーマ (株)	眼科学	教授	緒方 奈保子	補体 H 因子と von Willebrand 因子からみた滲出型加齢黄斑変性の病態解析
ノバルティスファーマ (株)	眼科学	学内講師	吉川 匡宣	緑内障が生体リズムとその関連疾患へ与える影響 - 前向きコホート研究横断分析 -
(公財) ライフサイエンス振興財団	脳神経システム 医科学	教授	坪井 昭夫	新生ニューロンを用いた脳血管障害の新規治療法の開発
(公財) ヤクルト・バイオサイエンス研究財団	脳神経システム 医科学	教授	坪井 昭夫	腸内フローラを用いた脳血管障害に対する新規な予防・治療法の開発
(公財) 日本応用酵素協会	第一内科学	助教	松井 勝	慢性腎臓病における可溶性 Flt-1 による動脈硬化症抑制機序に関する検討
(公財) 大阪ガスグループ福祉財団	眼科学	学内講師	吉川 匡宣	緑内障高齢者の睡眠・認知機能・うつ症状に与える影響
(公財) 整形災害外科学研究助成財団	県立医大医師 派遣センター	特任助教	江川 琢也	シルクフィブロインを用いた骨形成促進機能を有する骨欠損部補填材料の開発
(公財) 喫煙科学研究財団 (2 年目)	第一解剖学	教授	西 真弓	妊娠中の受動喫煙が子供の摂食行動・嗜好性行動に及ぼす影響の分子基盤の解明
(公財) 喫煙科学研究財団 (3 年目)	免疫学	教授	伊藤 利洋	炎症性腸疾患動物実験モデルでの腸内細菌のメタゲノムならびに免疫学的解析とニコチン・喫煙による変化の検討

(特非) 日本メディカルハーブ協会	脳神経システム 医科学	教授	坪井 昭夫	メディカルハーブを用いた脳梗塞の新規な予防・治療法の開発
(公財) 日本科学協会	微生物感染症学	非常勤 講師	鈴木 由希	カルバペネム耐性遺伝子の拡散機構の解明ならびに耐性菌蔓延防止策の構築
(公財) 日本応用酵素協会	脳神経システム 医科学	教授	坪井 昭夫	脳梗塞後の初期に大脳皮質ニューロンで発現する転写因子 Npas4 の解析
(一財) リディアオリリー記念ピアス皮膚科学振興財団	皮膚科学	講師	宮川 史	SLE モデルマウスにおいて γ c-cytokine が果たす役割の解明
ノバルティスファーマ (株)	皮膚科学	講師	宮川 史	SLE における NF- κ B 経路と I 型 IFN 経路の病態への関与の解明と新規治療法の開発
ノバルティスファーマ (株)	脳神経外科学	助教	竹島 靖浩	脊椎脊髄手術における術中運動誘発電位の基準波形安定化の試み
ノバルティスファーマ (株)	精神医学	助教	松田 康裕	認知機能リハビリテーションが内発的動機付けの神経基盤に及ぼす影響
ノバルティスファーマ (株)	未来基礎医学	研究教授	仲川 孝彦	糖尿病合併症の発症機序としての骨髄由来細胞の役割 (今回は糖尿病性腎症を中心に)
ノバルティスファーマ (株)	皮膚科学	准教授	小豆澤 宏明	中毒疹におけるウイルス感染症同定法の開発
ノバルティスファーマ (株)	神経内科学	教授	杉江 和馬	オートファジーを原因とする「自己食空胞性ミオパチー」の疾患概念確立のための臨床的解析
ノバルティスファーマ (株)	第一内科学	助教	尾上 健児	特発性心筋症治療を目指した新たな臨床応用可能な核酸医薬薬の創製
ノバルティスファーマ (株)	消化器・ 総合外科学	教授	庄 雅之	乳癌における T 細胞 Negative Pathway の臨床的意義の検証と新規免疫集学的治療法の開発
ノバルティスファーマ (株)	第二内科学	准教授	山内 基雄	COPD と閉塞性睡眠時無呼吸症候群のオーバーラップ症候群における治療介入効果についての検討
ノバルティスファーマ (株)	免疫学	教授	伊藤 利洋	新規マウスモデルを用いた特発性肺線維症の病態解明とオーダーメイド治療開発
ノバルティスファーマ (株)	栄養管理部	部長 病院教授	吉川 雅則	COPD 患者における骨粗鬆症の治療戦略構築に向けた基盤研究
アルコンファーマ (株)	眼科学	学内講師	西 智	小児の弱視眼における網膜、脈絡膜構造の検討
アルコンファーマ (株)	眼科学	教授	緒方 奈保子	白内障手術が高齢者の生活機能に及ぼす影響
アルコンファーマ (株)	眼科学	講師	丸岡 真治	ドライアイにおける樹状細胞の関与について
(公財) 武田科学振興財団	免疫学	教授	伊藤 利洋	エピジェネティクスによる重症インフルエンザ感染症の病態解明
(公財) 喫煙科学研究財団 (共同研究者)	第一内科学	教授	斎藤 能彦	循環器疾患における喫煙習慣と炎症の病態解明; 臨床および疫学による多面的研究
(公財) 日本応用酵素協会 (2 年目)	第一内科学	助教	松井 勝	慢性腎臓病における可溶性 Flt-1 による動脈硬化症抑制機序に関する検討
(公財) 大阪難病研究財団	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学	医員	阪上 雅治	真珠腫性中耳炎の発生機序解明と治療法開発
(公財) 武田科学振興財団	未来基礎医学	特任講師	森 英一郎	成体脳の構造を再現したヒト脳オーガノイドでの樹立
(公財) 武田科学振興財団	脳神経システム 医科学	教授	坪井 昭夫	新生ニューロンによる神経回路の再編機構の解明と脳血管障害の新規治療法の創出
バイエル薬品 (バイエル ヘモフェリア アワード プログラム) (2 年目)	小児科学	助教	志田 泰明	The role of shear stress on biosynthesis and interaction of factor VIII and von Willebrand factor
(公財) 武田科学振興財団	精神医学	講師	牧之段 学	愛着障害と自閉スペクトラム症における PTSD 脆弱性機序の解明
日本尿路結石症学会	生体分子不均衡 制御学 (共同研究講座)	教授 (共同研究 講座)	永森 收志	シスチン尿症の病態発現機序解明に基づく薬物治療を目指した基礎的研究
(公財) MSD 生命科学財団 (2 年目)	第一内科学	助教	松井 勝	PIGF/sFlt-1 系による腎硬化症進展の機序解明
(一財) 島原科学振興会	生体分子不均衡 制御学 (共同研究講座)	教授 (共同研究 講座)	永森 收志	がん細胞型アミノ酸トランスポーター LAT1 を標的とした PET 診断プローブと抗がん剤の開発
(公財) 鈴木謙三記念医科学応用研究財団	未来基礎医学	研究教授	仲川 孝彦	ヒト腎オーガノイドに光操作を適用し、腎臓病での切断ポドシンの意義とマトリブターゼの役割を解明する
(一社) 日本血液学会	小児科学	准教授	野上 恵嗣	血液凝固第Ⅶ因子 - トロンピン制御軸を標的にした新規向凝固・抗凝固薬開発の基礎的研究
(公財) 日本応用酵素協会	第一内科学	助教	中川 仁	ANP 系のミネラルコルチコイド受容体抑制機序の解明
(公財) 鈴木謙三記念医科学応用研究財団	第二内科学	助教	鍛冶 孝祐	TGR5 アゴニストと DPP4 阻害薬併用による新たな非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) 治療法の確立
(公財) 内藤記念科学振興財団	脳神経システム 医科学	講師	高橋 弘雄	神経活動依存的な転写因子 Npas4 は脳梗塞後の神経細胞死を抑制する
(公財) 神澤医学研究振興財団	未来基礎医学	特任講師	森 英一郎	ヒト脳オーガノイドを用いたエストロゲン欠乏に伴う精神症状の解明
(公財) 上原記念生命科学振興財団	未来基礎医学	特任講師	森 英一郎	ヒト脳オーガノイドを用いた C9orf72 関連 ALS/FTD の研究
(公財) 痛風財団	未来基礎医学	研究教授	仲川 孝彦	尿酸とエネルギー代謝の関係
(公財) 日本臓器病研究財団	消化器・ 総合外科学	学内講師	赤堀 宇広	Myostasis の実験的・臨床的病態解明による新規癌治療法の開発
(公財) 上原記念生命科学振興財団	消化器・ 総合外科学	教授	庄 雅之	難治性消化器癌に対する選択的癌免疫治療法の開発
(公財) 日本応用酵素協会	生体分子不均衡 制御学 (共同研究講座)	教授 (共同研究 講座)	永森 收志	プロテオミクスによるアミノ酸膜輸送体集合体の同定とその下流シグナル全体像の解明
武田薬品工業 (株)	免疫学講座	助教	王寺 典子	悪性腫瘍に高発現する HLA-F を利用した新規がん免疫療法の開発

公開講座情報

高齢者脳の若がえりサロン

開催日：平成30年1月24日(水)～毎月第4水曜日
13:30～15:00

場所：橿原中央公民館

概要：理学療法による介護予防 他

対象：県民

定員：100名

備考：事前申し込み必要 参加無料

問合せ先：奈良県立医科大学

老年看護学 0744-22-3051 (内：2766)

第8回大和漢方医学薬学セミナー

開催日：平成30年2月4日(日) 10:00～15:00

場所：奈良県立医科大学厳櫃会館大ホール

概要：『これだけは知っておきたい漢方処方』・『診断の実技』他

講演者：大和漢方医学薬学センター 三谷 和男 特任教授

対象：県民

定員：40名

備考：事前申し込み要 参加費：1,000円(食事代含)

問合せ先：奈良県立医科大学 大和漢方医学薬学センター

0744-29-8853

奈良臨床漢方医学セミナー

開催日：平成30年2月8日(木) 18:30～20:00

場所：奈良県立医科大学厳櫃会館大ホール

概要：『漢方薬の使い方②』

～漢方薬が効かなかった時の次の一手を知る～

講演者：聖路加国際病院リウマチ膠原病センター

副医長 津田 篤太郎 先生

対象：県民

定員：100名

備考：事前申し込み不要 参加無料

問合せ先：奈良県立医科大学 研究推進課 0744-29-8913

奈良県立医科大学 教育開発センター 0744-29-8832

(株)ツムラ奈良営業所 0742-33-0058

平成29年度後期 奈良県立医科大学公開講座「くらしと医学」

開催日：平成30年2月11日(日) 13:00～

場所：奈良県文化会館国際ホール

概要：「口から始まる健康長寿」をテーマに、健康長寿の向上に口腔ケアが直結していることについて、基調講演とディスカッションを行う。

講演者：口腔外科学 桐田 忠昭 教授 他

対象：県民

定員：1,300名

備考：事前申し込み不要 参加無料

問合せ先：奈良県立医科大学 県民健康増進支援センター

0744-22-3051 (内：3608)

奈良県立医科大学がんプロ県民公開講座

開催日：平成30年2月18日(日) 13:30～15:30

場所：橿原文化会館小ホール

概要：切らずになおす最先端のがん治療

①放射線治療の進歩 ②肺がんの治療

③子宮がんの治療 ④前立腺がんの治療

講演者：放射線腫瘍医学 長谷川 正俊 教授 他

対象：県民

定員：300名

備考：事前申し込み不要 参加無料

問合せ先：奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学

0744-22-3051 (内：3473)

女性のための健康講座

開催日：平成30年3月3日(土) 14:00～16:00

場所：奈良商工会議所

概要：①乳がん検診と治療の最前線

②婦人科がんの現在と未来

講演者：名張市立病院 乳腺外科 医長 中村 卓 先生 他

対象：県民

定員：150名

備考：事前申し込み必要 参加無料

問合せ先：奈良県産婦人科医会公開講座係 0744-22-8502

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、平成29年11月までに累計1,664件のご寄附をいただいています。
 なお、今号では、平成29年10月～11月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

平成29年9月以前にご寄附いただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍基金」HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>)に掲載しています。

【個人】

◆100万元以上1,000万円未満

齊藤 正幸 様 澤西雄一郎 様 高比 康臣 様
 橋本 浩 様
 掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆30万円以上100万円未満

青木 誠 様 青木 保恵 様 安達 英子 様
 安達 一雄 様 油谷令尹子 様 井上 聡己 様
 今西 哲人 様 今村 知明 様 上嶋 昌和 様
 植田 充治 様 上塚 弘 様 梅垣 修三 様
 鶴山 秀人 様 奥山 節彦 様 鎌田勝三郎 様
 亀田 陽一 様 川端 千晶 様 河村 健二 様
 菊池 英彰 様 岸本 良博 様 北山勘解由 様
 吉川 公彦 様 熊田 幸江 様 車谷 典男 様
 齊藤 弥穂 様 齊藤 守重 様 齋藤 能彦 様
 櫻井 立良 様 志水 敏夫 様 庄 雅之 様
 杉本 潤 様 鈴木 秀夫 様 曾根 勝 様
 高倉 義典 様 竹川 隆 様 田中 宣道 様
 田中 康仁 様 長 澄人 様 土居 通明 様
 徳永 英守 様 長雄 正博 様 中島 隆介 様
 中谷 晃 様 中野 利夫 様 中林 仁美 様
 中村 武彦 様 成尾 一彦 様 二宮 俊之 様
 野中 秀郎 様 橋本 俊雄 様 橋本 平嗣 様
 畠山 金太 様 林 需 様 久永 學 様
 藤本 清秀 様 藤本 眞一 様 本田 伸行 様
 牧野 弘之 様 松本 寛史 様 三橋 二良 様
 村田 省吾 様 山田 薫 様 山田 優 様
 山中 敏彰 様 山吉 滋 様 吉岡 章 様

吉岡智代子 様 吉田 克法 様 吉村 均 様
 米山 恵嗣 様

掲載を希望されないご寄附者様 17名

◆10万元以上30万円未満

浅田 秀夫 様 五十嵐稔子 様 伊藤 利洋 様
 岩崎 洋明 様 上平 悦子 様 植村 信子 様
 大川 晋一 様 太田 康彦 様 荻田 恭也 様
 奥井 桂三 様 勝山 慶之 様 北原 紘 様
 木下 國浩 様 切石礼次郎 様 桑原 弘純 様
 小味測智雄 様 齋藤 宏史 様 酒井 宏水 様
 塩谷 直久 様 清水 啓敏 様 鈴木 順三 様
 住田 淳子 様 相馬 康人 様 相馬 洋子 様
 高塚 英雄 様 高濱 潤子 様 高濱 誠 様
 竹田 幸司 様 長尾喜八郎 様 仲川 喜之 様
 二階堂雄次 様 西久保敏也 様 畠 生也 様
 福原 昌夫 様 細川 洋治 様 堀 謙輔 様
 堀内 俊孝 様 榎田 義英 様 松田 良介 様
 松村 雅彦 様 丸中 州 様 家根 巨有 様
 横田 雅子 様 脇坂 弘暢 様 渡辺 裕之 様
 掲載を希望されないご寄附者様 28名

◆10万円未満

上田 章雄 様 江川 琢也 様 岡田 公次 様
 岡田 安司 様 鴨川 郷 様 鴨川 秀子 様
 北村 紀文 様 小林 恭代 様 佐藤 林平 様
 関 寿夫 様 辰巳 英章 様 田中 幸博 様
 玉置 亮 様 寺井 太一 様 土井 駿介 様
 橋本 明美 様 橋本 英雄 様 福岡 篤彦 様

藤井 唯誌 様 松下 修 様 三上 貞昭 様
 森川 東 様 矢野富士夫 様 山下 昌宏 様
 山中富美男 様 吉峰 正 様

掲載を希望されないご寄附者様 24名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

荒木 正史 様 家出 清章 様 石田由佳子 様
 市川 正裕 様 今井 照彦 様 衛藤 幸男 様
 大庭 直樹 様 岡嶋 克則 様 岡嶋純一郎 様
 緒方奈保子 様 岡村 圭祐 様 木田 恵子 様
 衣川 一彦 様 久下 隆 様 黒川紳一郎 様
 小林 経宏 様 小林 浩 様 笹内 信行 様
 潮見 満雄 様 嶋岡 敬二 様 島屋 正孝 様
 杉江 祐子 様 杉山 友悦 様 酢谷 俊夫 様
 瀬戸 靖史 様 高宮 晋一 様 陳 寒達 様
 塚田 周平 様 土田 容子 様 中込 将弘 様
 西尾福英之 様 根元 成佳 様 東野 正 様
 福山 隆之 様 前川 尚宜 様 松本 恒和 様
 鞠子 眞清 様 諸井慶七郎 様 藪本 明広 様
 吉川 高宏 様 吉川真由美 様

【法人・企業】

◆10万元以上50万円未満

医療法人 桜翔会 中辻医院 様
 医療法人 長尾会 ねや川サナトリウム 様
 医療法人 光伸会 増田泌尿器科 様
 (五十音順)

「未来への飛躍基金」 寄附金控除等の仕組みについて

日頃は「未来への飛躍基金」に対しご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
 お陰様で平成29年も学内の教職員・学外の方々から多くの寄附申込をいただきました。
 基金の活用により全国トップレベルの大学を目指す取組を積極的に展開し、本学の「未来への飛躍」に万全を期していく必要がありますが、それには、皆様の基金への継続的なご支援が不可欠です。
 今回は、ふるさと納税を利用した寄附金控除の仕組みを簡単に紹介しますので、参考の一助としていただき、引き続き協力を賜りますようお願い致します。

ふるさと納税制度活用イメージ ●年収600万円(住民税が年間30万円)の方の例

	平成29年	平成30年	計
寄附しない場合	寄附者 住民税 30万円 → 納税	寄附者 住民税 30万円 → 納税	60万円
税金の一部をふるさと納税寄附する場合	寄附者 寄附 6万円 住民税 30万円 → 奈良医大 → 納税	寄附者 住民税 24万2千円 → 納税	60万2千円

※上記の例は、「ふるさと納税ワンストップ特例制度」を利用した場合のイメージです。※確定申告されている場合は、寄附をした年の所得税及び翌年6月以降の住民税が減額されます。

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
10月31日	奈良テレビ『県政フラッシュ』	—	奈良県立医科大学ワンデイフェスティバルの様子が放映された
10月31日	奈良新聞	内科学第三 学内講師 赤羽たけみ	胃がんについてコメント
11月12日	中日新聞 東京新聞	公衆衛生学 教授 今村 知明	TPPにおける食の安全(検疫体制)についてのコメントが掲載
11月26日	毎日新聞	理事長 細井 裕司	軟骨伝導補聴器についてコメント
2017年 11月29日	奈良新聞	内科学第三 学内講師 赤羽たけみ	胃がんについての講演内容が掲載
12月5日	奈良テレビ『ゆうドキッ!』	内科学第三 学内講師 赤羽たけみ	ウイルス性肝炎の症状の解説 等
12月17日	朝日新聞	疫学・予防医学 教授 佐伯 圭吾	室温と血小板数の関連について
12月25日 ～29日	TBS ラジオ『生島ヒロシのおはよう定食・おはよう一直線』	内科学第三 学内講師 赤羽たけみ	胃がんについてコメント 他
12月26日	日本経済新聞	—	MBTについて

編集後記

皆様からのご協力をいただき第63号学報を発行する事ができました。ご協力・ご支援頂いた皆様に深く感謝いたします。

さて、本誌の表紙及び12ページでもご紹介させていただいておりますが、本学のゲストハウスをリニューアルいたしました。歴史ある今井町で、老朽化していた2階建ての空き家を全面改装して快適な4つの部屋を設け、伝統的な町並みにふさわしい外観に整えました。今井町に健康と医学の拠点がひとつ加わりました。

